

# 学校向け 90分でわかるプログラミング教育

『プログラミング学習を活用して、すべての教科を深く学ぶ』

☞プログラミング学習によって子どもたちの各科目の学び方にどのような変化が起きるか

## 1. 学校におけるプログラミング教育の意義と意味 (15分)

→プログラミング教育で何をを目指すのか？

(文科省資料の抜粋を含む、文科省が繰り返し主張していること)

【理解の到達点目標】技術を教えるのではないことが理解できること

## 2. 各教科でのプログラミングを活用した授業デモ (40分)

→世界中の教育現場で利用されている無料の教育用プログラミング環境Scratchでここまで出来る

(国語、社会、算数・数学、理科・物理、音楽、図画工作・美術、家庭の具体例)

【理解の到達点目標】全科目でプログラミングを利用した学びが実践できること

## 3. 教え方 (15分)

→STEMが良いのか、成熟度別、年少ほど男女の嗜好及び学び方の違いがあった

(パソコンやスマホやロボットはプログラミング教育に必須なのか？)

教えるべきことは？)

【理解の到達点目標】教えるときの留意点が理解できること

## 4. なぜ英国はICT教育からコンピューティング教育に変えたのか？ (5分)

→本質的に目指すもの。今のICT教育に欠けるもの。

(ICT教育とは、コンピューティング教育とは？その違いは何か？)

【理解の到達点目標】プログラミング教育で求めている本当のスキルが理解できること

## 5. 最後に (5分+質疑応答10分)

将来、プログラミング教育が活かされる仕事

→アーティスト、ファッション系、保育士、看護師、ケーキ屋さん、花屋さん等も

(プログラミングは今も技術スキルなのか？リベラルアーツと考え教える必要は？)

【理解の到達点目標】プログラミングが今後は将来の理系だけに必要なものではないこと

※小職自身は文系・理系という区分には意味があるのかと懐疑的ですが、

将来の自分には関係ないからと興味を失わせないようにすることも大切だと思います

お申込みは下記サイトまたは下記メールまで

lab@edri.tokyo

出張経費: 2万円(旅費別途)